

2018年3月期第1四半期決算説明会 質疑応答

2017年8月3日に開催した決算説明会における主な質疑応答は下記の通りです。なお、記載内容につきましては、ご理解いただきやすいよう一部に加筆・修正をしております。

Q1：心臓血管カンパニーの業績は通期見通しに対し、売上・利益ともに順調に推移しているようだが、今後もこのトレンドが続くのか？

A1：現時点で見えているリスクはなく、引き続き堅調に推移すると見込んでいる。ただし、現時点で販管費の発生額が想定よりもやや低い水準となっており、第2四半期以降、もう少し費用が増えるとしている。

Q2：当四半期の粗利益率（56.2%）は、前年同期の高い水準（55.6%）をさらに上回ったが、今後の見通しは？

A2：粗利益率の改善は、収益性の高い心臓血管カンパニーの売上構成比が大きく増えたことが主な要因である。為替変動の影響がなければ、引き続きこの水準を維持することは可能と見ている。

Q3：売上増による粗利益の増加がプラス81億円となっているが、この内、2016年度買収分の寄与は？

A3：買収後の組織統合等に伴い、買収分のみの粗利益を正確に切り分ける事は難しい。概算で50億円程度と見ている。

Q4：2016年度買収分ののれん等償却前営業利益は、年間での予想額30億円に対し、第1四半期で既に14億円と早いペースで進捗しているようだが、その要因は？

A4：アンジオシールの販売が想定を上回って推移している。当社はアクセスデバイス専任の販売部門を持っていることに加えて、買収直後で営業担当者が特にアンジオシールの販売に力を入れていることなどが寄与している。

Q5：2016年度の買収分による増収効果95億円に対して、のれん等償却前営業利益は14億円、利益率で見るとあまり高くないように思われるが、統合作業が完了すれば改善していくのか。

A5：アンジオシール等の止血デバイス事業は利益率が高いが、シークエントメディカル社とボルトンメディカル社は現時点でまだ赤字なので、統合が完了してもすぐに収益貢献する訳ではない。

Q6：2016年度の買収の影響を除いた場合のTIS（カテーテル）事業、ニューロバスキュラー事業の増収率は？

A6：TIS事業は買収した事業も含めると前年同期比24%増、買収影響を除くと7%増。ニューロバスキュラー事業はそれぞれ35%増、27%増となっている。

Q7：ニューロバスキュラー事業で吸引カテーテルの販売が好調とのことだが、脳梗塞治療デバイス市場が拡大する中で、今後この分野の売上拡大が期待できるのか。

A7：脳梗塞治療デバイス市場は拡大しており、当社も吸引カテーテルの販売が大きく伸びている。吸引カテーテルに加えて、詰まった血栓を絡めて取り出すステントリーバーの開発も進めており、製品ラインアップを拡充することで、この分野での売上拡大を目指す。

Q8：米国の医療機器物品税（Medical Device Excise Tax）が2018年1月から復活した場合、今年度の業績への影響は？

A8：2017年度の計画では課税復活による費用増を見込んでいない。仮に2018年1月から再び課税開始された場合は、第4四半期に5億円程度の費用増が見込まれる。

Q9：決算短信のセグメント情報に記載されているカンパニー外の調整額がプラスの要因は？

A9：カンパニーの業績貢献を正しく把握するため、各カンパニーへの本社費配賦は計画値で行っている。そのため、実際に発生した本社費の額が計画を下回ると、その分はカンパニー外の調整額に利益のプラスとして表現される。当四半期は販管費の進捗が計画をやや下回っており、その分のプラスが主な増加要因である。

以上